

第 1173 回放送分『眼科疾患』4 回目

ゲスト：田中 最高ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「眼科疾患」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 田中 最高（たなか よしたか）ドクターです。
田中さん、最終週もよろしくお願いいたします。

田中最高Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は緑内障についてお話いただきました。
60 歳以上だと 10 人に 1 人という、とても多くの人になる緑内障ですが、
なかなか症状に気づきにくい厄介な病気だというお話でした。
ただ眼底検査を行うことで、初期の段階で発見することができ、
初期で見つければ進行をだいぶ遅らせることができるとのことでした。
今日は何についてお話しいただけますか？

田中最高Dr.

今日は加齢黄斑変性についてお伝えいたします。
加齢黄斑変性は目の底にある脈絡膜と網膜が関係しています。その血管にポリープや弱い部分ができ出血やむくみを起こし、見え方の障害につながります。
これを放置するとほとんど見えなくなってしまう手強い病気ですが、
早期に発見して適切な治療を行えば、視力を維持ないし回復できる可能性があります。

二見いすず

回復できる可能性があるんですね。

田中最高Dr.

眼の中に注射で投与する抗 VEGF 薬という薬剤が
2008 年に認可されて、これのおかげで激変したんです。
それまではなかなか治すことのできない病気でした。
しかしこれも早めに見つかってこそその話です。
早期で発見するためにも検査がとても大切になります。

二見いすず

検査はどのようなものになりますか？

田中最高Dr.

散瞳検査と合わせて緑内障のときにも話に出てきた OCT（眼底三次元画像解析）を行います。

この検査によって格段に正確に診断を下せるようになりました。
そのため近年は加齢黄斑変性と診断される方が急速に増えています。

二見いすず

検査のおかげで増えたということですね。
人数は増えたのかもしれませんが、早めに分かって治療できるというのはいいことですね。
ちなみに加齢黄斑変性になると、どのような症状が出てくるのでしょうか。

田中最高Dr.

初期だと無自覚なこともあります。モノがゆがんで見えるのが特徴です。
また色が分かりにくくなるという症状もあります。

二見いすず

加齢黄斑変性はどんな人がなりやすいのでしょうか？

田中最高Dr.

喫煙がかなり影響します。
白内障、緑内障については、生活習慣の影響は限られていましたが、
加齢黄斑変性の予防のためにも禁煙することを強くおすすめします。

二見いすず

そうなんですね。

田中最高Dr.

年齢にともない様々な病気になりやすくなりますが、
検査をすることで早期に発見できます。
体の中の病気と違って、目の病気は検査をすれば短時間でほぼ確実に見つかるものが多いので、
まずは定期的に検査をするよう心がけていただきたいです。

二見いすず

よく分かりました。
今月は、「眼科疾患」をテーマに
鹿児島県医師会 田中最高ドクターに貴重なお話をさせていただきました。
田中さん、ありがとうございました。

田中最高Dr.

ありがとうございました。